

令和7年度 学校経営方針

1 学校教育目標

一人一人に応じた自立と社会参加によって地域で心豊かに生きることを目指し、それぞれの能力や個性を最大限伸ばす教育を推進する

【各学部を目指す姿】

小学部：仲間（学級や学年）の中で、安心できる人の支えのもと、基礎的生活力を身に付けて心豊かに生活する

中学部：集団（学部・学校）の中で、仲間と認め合い、自分の思いや考えを自分なりに表して心豊かに生活する

高等部：集団（学校・地域）の中で、主体的に学び、自ら判断、行動して心豊かに生活する

2 学校経営の方針と重点

『学校を開く』

新しい学校の開校の年度、全ての職員が新鮮な気持ちで、自分たちが新しい学校を創っていくという気概をもち、既存の概念や価値観にとらわれず、子どもたちの様々な可能性を引き出すための創意工夫と温かさに満ちあふれる学校を目指す。

○互いに自分を開く 自分の思いを語り、相手の話に耳を傾ける 職員の充実感が教育の質に直結する。一から職員集団、組織を作る今年度は互いに相手を尊重しながら、自分の思い、意見を安心して語り合える職場をつくる。 まずは、学級、学年、身近な小さなチーム作りに重点を置く。その上で、小中校一貫の一体感のある学校を目指す。	○子どもたちを開く 「一緒にいることが楽しい、嬉しい」を表す、伝える 子どもたちも保護者も皆、不安や心配を抱えた状況から始まるという前提で関わり、支援、指導にあたる。 学校に一人一人の「その子の居場所」と「学校に行く甲斐」をつくる。 そのために、学校の施設設備はもちろん、全職員も、すべては子どもたちにとっての教育環境であることを再確認	○地域を開く 地域の方に「親しみ」を感じてもらう 地域の方は学校のこと、子どもたちのことを知ること で、学校の味方、子どもたちの味方になり、卒業後、地域で生活していく時の理解者になってもらう。 新学校への興味関心が高いこの時期にだからこそ、地域の人に来校してもらえる機会を意図的に設けたい。 また、市立の学校として、
---	---	--

業務をスムーズに行うため一定のルールや進め方は、管理職、担当者が基本線を示し、実際に運用しながら、適切かつ柔軟に改善し続け、より効果的で効率的な業務に繋げる。 教員として閉じない、成長のために新しい教育観、知識、スキル等、教員の学びは必須。より実践的、対話的な研修を積極的に実施する。	し、子どもたちのためにどう活用するか、「なすべきこと」がどうしたら可能になるかを常に考える教員集団を目指す。 組織として心理的安全、物的安全を保障する体制の整備の推進と、実際の運用も不可欠である。	各務原市の障がい者の理解啓発と、特別支援教育のセンター的機能を果たすことは使命であることを職員間で共有する。 地域の方には来校の機会や実際の子どもたちとの交流などを通して、学校に対しても児童生徒に対しても、身近な存在として親しみを感じてもらえるようにしたい。
【今年度の重点】 ・チーム機能を高めたり、発揮したりしやすい会議の持ち方、行事の在り方の工夫 ・一体感のある学校運営の実現のため、管理職、分掌長等を核とした各学部、各分掌、校内組織の連携強化。 ・「教育」だけにとらわれない幅広い視点からの研修や、ワークショップ等実践的な活動を重視した研修の実施	【今年度の重点】 ・家庭、学校、関係機関との連携による、多面的な実態把握に基づいた個に応じた支援の充実 ・医療的ケア体制の整備 ・防災の視点からの施設管理体制の整備 ・施設設備を活用した非常変災時の対応の整備 ・防災安全に関するマニュアル作成	【今年度の重点】 ・学校運営協議会の推進による地域資源の活用 ・市内の高等学校との交流及び共同学習の継続 ・鵜沼地区の幼小中学校との有機的な交流の推進 ・ボランティアの効果的な運用 ・地域の理解を促進するための「ひばり喫茶」「本の森」「わくわく広場」等施設設備の有効活用 ・学校行事の地域開放の検討